

一つ夢がかないました！
今年の2月の記事で日本との関係が深く、「楽しい」はパラオ語で「タノシイ」、「大丈夫」も「ダイジョーブ」というように言語はもちろん、その他の文化などにさまざまな日本の影響を感じられ、ご縁のある「パラオ共和国(以下パラオ)の子どもたちと理科実験をしたい」と宣言しました。当時はコネクションもありませんでしたが、来年にパラオで実際に授業ができるようになりました。

④ 1勝100敗



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

私の座右の銘は「1勝100敗」
一つの夢をかなえるためには、それ以上の失敗をする必要がある、その失敗を恐れてはいけないと考えています。



今回は、在パラオ日本大使館に直接メールを送信。「相手にされないのでは？」という思いもよぎりましたが、失敗しても「相手に

101回の経験、成長が手に入る

されないだけで私には損はない」と考え、魂を込めてパラオへの思いを伝え、夢をかなえました。話は変わって、私には兄がいます。兄の学歴は、中学から大学まで全て高学歴という華やかな経歴。一方の私は、中学受験を失敗してから、高校受験、大学受験と全て第一希望に失敗…。常に兄との対比で育ち、高校時代は、「自分なげ生まれできたのか？」と深刻に考える時期もありました。そんな時に出会ったのが「1勝1

00敗」
「失敗を恐れず、達成するまで挑戦し続けよう」。吉本新喜劇のオーディションに挑戦し合格、「大学の先生になりたい」と思い現職に、松竹芸能の社長に直にお手紙を送って芸人さんが子どもたちにコミュニケーションについての授業を行う「笑育」の監修を担当した。
これだけを並べると全てがうまくいったように思えますが、高校



しかし、その負けは単なる負けではなく、力不足などの自分自身を知る機会となり、悔しさが次の挑戦のための原動力になり、以後の人生に欠かせない価値ある経験

1年の時に人形浄瑠璃の技芸員募集に応募し不採用、小学校教員の時に南極観測隊に応募して不合格、芸人時代も映画俳優の主演オーディションに挑戦し失敗、これらはほんの一部でたくさん挑戦をしていくと、失敗、成功の100倍近くの負けがあります。

なっています。
「1勝100敗」は一つの勝ちだけでなく、101回の成長が手に入る貴重な挑戦となります。今回のパラオ挑戦も、負けを恐れず行動したからこそ手に入れることができました。
チャンスをつかむためには失敗を恐れず行動することが大切。どんなことになるのかわかりませんが、パラオでもさまざまな授業に挑戦して、パラオの子ども達を楽しませたいと考えています。そして、今回を含む、たくさんの経験を生かして、いつかは、世界中の子ども達を私の理科実験で笑顔にしたいです！